

中村かずひご通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp vol.50



☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を！

9月定例議会報告 9/2▶9/25

9月定例議会が、9月2日(水)から25日(金)の24日間にわたって行われました。
今回、執行部から提出された議案は、平成26年度の一般会計・特別会計・水道事業会計決算のほか、新生児1人につき3万円支給される『赤ちゃん誕生祝金支給条例の制定』など計17件で、いずれも原案通り可決されました。



地方創生の
課題に向けて

一般質問

議員による質疑・一般質問は、8日(火)と9日(水)の2日間行われ、中村は9日の最終質問者として登壇。地方創生に関する課題をはじめ計4件の一般質問を行い、執行部との論戦を展開しました。

執行部は答弁の中で、現在市内の小学校5校に配置している『学校図書館の専任司書』について今後は他の小中学校への拡充を図っていく考えであることや、空き店舗を活用して起業家支援を行う『チャレンジショップ事業』を検討していくことなどを明らかにしました。

(中面に関連記事)

中村が行った一般質問の内容

- 1.『まち・ひと・しごと創生総合戦略』について
(1)地域経済分析システム(RESAS)について
- 2.中心市街地及び市街化調整区域における取り組みについて
(1)空き店舗対策について
(2)芳賀赤十字病院の将来的な跡地利用について
(3)市街化調整区域における取り組みについて
- 3.協働のまちづくりについて
(1)行政の組織機構について
(2)市長が行う情報発信について
- 4.教育関係の諸課題について
(1)国語教育の充実化について
(2)教員の多忙感解消について
(3)平和教育の推進について

平成26年度 決算審査特別委員会

また、18日(金)に行われた『平成26年度決算審査特別委員会』において、中村は10項目について質疑を行いました。

- 1.地域情報通信基盤設備費(CATV関係)について
- 2.自主防災組織育成費について
- 3.人材育成費(市職員の研修関係)について
- 4.財産管理費について
- 5.消費生活センター費について
- 6.商業振興対策費について
- 7.SLキューロク館管理費について
- 8.道路新設改良事業費について
- 9.公園管理費について
- 10.市税(個人市民税、法人市民税、固定資産税、都市計画税)の滞納状況と対策について

『議会活性化等検討委員会』が発足

真岡市議会ではこの度、各会派の代表や当選期別の代表などが集まり『議会活性化等検討委員会』を発足。中村も4・5期議員の代表としてメンバーに加わりました。

9月定例議会の開会日だった9月2日(水)に第1回目の会合が行われ、正副委員長を決定したほか、議会の活性化に向けて検討すべき課題についても話し合いを行いました。

今後、『議員個々の政策立案能力の向上』、『質疑・一般質問の方式』、『市民とのコミュニケーション手段』、『議会基本条例の制定』などについて議論が進められていく予定です。

議会活性化等検討委員会のメンバー

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ○野沢 達 議員 | 星野 守 副議長 | 柳田 尚宏 議員 |
| ○春山 則子 議員 | 大瀧 和弘 議員 | 櫛毛 隆行 議員 |
| 海老原 宏至 議長 | 柴 恵 議員 | 中村かずひご |

(◎、○は正副委員長)



10月16日に行われた第3回目の会合の様子。

次回発行予定日

1月31日(日)

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

2003年の初当選以来発行を続けてまいりました

『中村かずひご通信』は、皆様のご支援により、今回の発行で50号となりました。

これからも、より良い紙面づくりに努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。





中村かずびと議会レポート

9月定例議会 一般質問

【答弁者】
井田 隆一 市長
酒井 勲 教育長
中里 滋 総務部長
増山 明 産業環境部長

1. まち・ひと・しごと創生総合戦略 について



質問 真岡市では、先頃「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案を発表した。中身を読むと、各議員がこれまで提言してきた政策も取り入れられ、一定の評価はできる。ただし、この総合戦略において、**生命線となるのは「選択と集中」**。つまり、真岡市の特徴をどこまで盛り込めるかだったはずで、それについては疑問が残る。国では、各自治体が戦略を策定する際の支援策として**地域経済分析システム「RESAS（リーサス）」**を供用開始させているが、**どこまで活用**が図られたのか。また、**真岡市の強み、弱み**はどのように分析したのか。

答弁 総合戦略の策定にあたっては、各種統計データなどをもとに「日本有数の内陸型工業団地」、「いちご生産量日本一」、「SLの走るまち」、「都市基盤整備」、「特色ある教育」などが真岡市の強みであると再認識し、具体的な施策を検討している。**地域経済分析システム**については、今後農林水産業や医療福祉、教育に関する**データなども拡充され、毎年更新**が図られると聞いている。総合戦略の**検証を毎年行う中で、このシステムを活用**していきたい。

2. 中心市街地及び市街化調整区域における取り組み について



質問 真岡市では、一昨年4月に「SLキューロク館」、昨年10月「久保記念観光文化交流館」がオープンしたが、この2つの施設を**結ぶ通り**は、残念ながら**シャッター通り**となっている。**空き店舗対策**は喫緊の課題であるが、今後どのような取り組みをしていくのか。また、6月定例議会でも提案したが、**起業家の支援策として活用**を図ることはできないか。

答弁 平成23年度に実施した中心市街地の実態調査では、**シャッターが開まっている店舗は66軒**であったが、**貸し出す意向があるのは5軒にとどまっております**。廃業したが住宅として使用しているなどの理由により貸し出さない実態が明らかになった。中心市街地の景観形成や回遊性の向上を図るためにも、関係機関と協力して**空き店舗のほり起こし**に努めるとともに、起業家支援として小売業に対応した「**チャレンジショップ事業**」についても検討していきたい。

質問 **芳賀赤十字病院**は、施設の老朽化などに伴い、中郷萩田土地区画整理事業地区への**移転・新築**を計画している。**平成30年の開院**を目指しているが、今後考えていかなければならないことは、現在の病院の将来的な**跡地利用**の問題である。この件について、**行政、日赤関係者、地元住民**などで構成する**協議機関**を立ち上げるべきと思うが。

答弁 芳賀赤十字病院の**土地と建物は日本赤十字社のもの**であり、将来的な跡地利用については、同社が検討し、決定すべきものと考えている。したがって、**協議機関などについては市として設ける考えはない**。

質問 前回の6月定例議会で「市街化調整区域」の課題について取り上げたが、医療機関や金融機関、小売店などが減少しており、現状は大変厳しい。前回、市長は答弁で「**市街化調整区域**の中でも**コンパクトシティを目指す**」と述べていたが、これは**どういう状況**を指すのか。また、市街化調整区域において**どのような機能を保持**させていこうと考えているのか。

答弁 **各地区を単位として「生活拠点地区」とし、規模や役割に応じて住居・商業・行政・教育・文化などの機能を集積**させる。その上で、中心市街地と生活拠点地区や各集落などを公共交通ネットワークで結び、**多核ネットワーク型の都市構造**を目指すものである。今後、**公共交通ネットワークの充実**を図るとともに、自然・史跡・農産物などの魅力ある地域資源を活かして**各集落と中心市街地の交流**を深めながら、持続可能なまちづくりを進めたい。

質問 **市街化調整区域**における都市計画の**線引きの見直し**について、市長はこれまで**難しいとの見解**を示してきた。しかし、その前提に立ったとしても、
・空き家対策
・新規就農者支援
・二世帯及び三世帯の同居・近居に対する支援など
取り組むべき定住促進策は、まだあるように思えるが。

答弁 空き家対策については、昨年「**空き家実態調査**」を実施し、**真岡市の空き家は411戸**で、そのうち**市街化調整区域では179戸**だった。今後「**空き家バンク制度**」を導入するとともに、市街化調整区域の空き家は法的制限もあるので、制度設計などを調査しているところである。新規就農支援については、JAなどが実施する「**新規就農塾**」への支援や、農業機械購入費用など**初期投資に対する支援**を検討している。

質問 **市街化調整区域**の中で、**人の流れを活発**にさせていくためには何らかの仕掛けが必要である。昨年10月に真岡駅東口にオープンした「**まちなか保健室**」のようなものを、**各中学校区を目安に整備**させていくことはできないのか。専門家による健康相談ができ、世代間交流の拠点ともなっているこうした施設を整備した場合、メリットは大きいと考えるが。

答弁 まちなか保健室「**ほっとステーション駅前館**」は、昨年10月に真岡駅東口に面した空き店舗を活用して開設され、市民の**健康づくりや交流の場として効果**を上げている。**新たなまちなか保健室の整備**については、高齢者などに積極的に外出していただき、健康づくりに取り組んでいただけるよう**中心市街地に設置したい**と考えている。

3. 協働のまちづくり について



質問 真岡市では**協働のまちづくり**を進めるにあたって、自治会活動が総務課、地域公民館や男女共同参画が生産学習課、NPO・ボランティア活動や国際交流が安全安心課と、**管轄が分散**しており、分かりづらだけでなく**縦割りの弊害**を感じることもある。担当窓口を一本化させ、「**協働推進課**」のようなものを設置してはどうか。

答弁 協働のまちづくりを推進するための関係部署は、現在多くの課に及んでいる。そのため、一元的に統括するためには、規模の大きな課が必要になり、**1つの課で完結させるには膨大な事務量を抱えることになり難しい**。特に、課の新設にあたっては、行政の効率化、スリム化に努めている中であって、全体の関係性を考慮することが重要である。そのため、**当面は現行の体制**により、各課で連携を密にしながら推進していきたい。

質問 現在、**市長の定例記者会見**は年4回行われている。しかし、県内を見てみると**14市中11市の市長が月1回**のペースで行っており、**3ヶ月に1度**というのは**真岡市とさくら市**だけである。市長の定例記者会見は、報道機関との連携を密にすることや、「**地域情報のトップセールス**」という性格も持ち合わせている。**もっと頻繁に行われて然るべきではないか。**

答弁 「市長は、真岡市の広報・宣伝マンである」という認識の下、定例記者会見のほか、広報紙、ホームページ、もっかテレビの行政情報番組やとちぎテレビのデータ放送など、**多様な媒体を利用して**情報を伝えてきた。また、年間数十回に及び自治会や各種団体との**話し合い事業なども実施**してきたところである。今後も、情報発信は積極的に取り組んでいきたいと考えており、**記者会見については必要に応じて適宜開催**していく。

4.教育関係の諸課題について



質問 『全国学力・学習状況調査』(小学6年生、中学3年生が対象)と、『とちぎっ子学習状況調査』(小学4・5年生、中学2年生が対象)の結果を見ると、**真岡市の子ども達は国語が苦手**(国や県の平均を下回っている)ということが浮き彫りとなっている。**わが国の子ども達**に学力テストを実施すると、**最も苦手な分野は「読解力」**であることは以前から指摘されてきた。そうした中で、日本全体から見ても国語が苦手ということは、**何らかの対策が必要**と思われるが。

答弁 『全国学力・学習状況調査』などの結果から、『自分の考えを文章にまとめて書くこと』、『友達の前で自分の考えや意見を発表すること』が苦手であることが分かった。このため、国語はもちろん各教科の授業で、**文章をまとめる指導の充実**を図るとともに、意図的に**話し合い活動や発表の場を設ける**授業を展開している。また、現在小学校5校に**専任の司書**を配置しているが、今後は**他の小中学校への拡充**を考えている。

質問 昨年11月、文部科学省が全国の公立小中学校の教職員を対象に「どのような仕事に負担を感じているか」について調査を実施し、**授業や生徒指導とは別の仕事に負担を抱く「多忙感」の問題**が注目されている。今年7月に民生文教常任委員会が行政視察で訪れた福岡県春日市では、**提出文書や会議、研修のあり方**などを見直し、教員の「多忙感」解消につなげていたが、真岡市でも事務内容の**見直しを進める考え**はあるか。

答弁 文部科学省では、教員の多忙感解消に向け「**学校現場における業務改善のためのガイドライン**」を作成しており、栃木県教育委員会を通して、今後各市町に送付される予定となっている。真岡市としても、ガイドラインを参考とするとともに、教職員の業務負担に関する**状況を確認し、業務遂行の効率化が図られるよう努めていく**。

質問 今年の夏は、太平洋戦争が終結して70年という節目を迎え、さきの大戦に関連したTV番組が非常に目立った。ある番組によれば、アンケートに答えた200人の**若者のうち約半数が「8月15日が何の日か」正しく答えられなかった**そうで、戦争の記憶が次第に風化しつつあると感じる。そうした中、8月6日に行われる**広島市の平和祈念式典に中学生を派遣**する自治体が県内でも増えている(**今年は7市3町 計182名が派遣**)が、真岡市として派遣する考えはあるか。

答弁 市内小中学校では、原爆投下の悲惨さについて、社会科の授業で学んでいる。また、戦争体験者から直接話を聞くなどの活動も行っている。加えて、市内小中学校で行っている国際交流事業は平和の大切さを体験的に感じ取れるものと考えている。**広島、長崎の平和祈念式典への中学生派遣は、現時点では考えていない**が、原爆の悲惨さや平和の尊さについて、視聴覚ライブラリーなどの教材をさらに活用していきたい。
(質問重複のため、飯塚正議員への答弁より引用)

再質問



まち・ひと・しごと創生総合戦略について

質問 「RESAS」による分析は、戦略が策定されて各施策が動き始めた後の**事業評価の中で活用**するとのことである。では、このシステムを**使いこなすために、職員の研修は**今後どのように行っていく計画なのか。

答弁 今後、計画を推進していく中で、研修などについては**必要に応じて検討**していきたい。

要望

すでに、行政職員を対象とした研修会が全国各地で行われていたり、自治体が独自に研修会を開いていたりする。「**今後検討する**」というの**は遅い**ように感じる。早急に対応していただきたい。
また、「RESAS」については、行政が知り得る情報と、市民が得られる情報では開きがある。できる限り**市民との情報共有化**が図られるよう、**出前講座の新メニュー設定などを検討**していただきたい。

空き店舗対策について

質問 真岡市を視察で訪れたことのある他市の議員から「**真岡市=シャッター通り**」のイメージが強いと言われる。それほどシャッターで閉ざされた商店街が与えるインパクトは強く、**観光事業にも大きなマイナス**である。これまでも空き店舗対策には取り組んできたとは思いますが、**状況を変えるには手法を見直すことも必要**ではないか。

答弁 これまでも、空き店舗に対する改修補助や家賃補助などを行ってきた。**今年4月からは、商工会議所や商工会と連携して「空き店舗バンク」を創設**したところである。

質問 空き店舗対策における**一番の問題は、持ち主が貸そうとしないこと**である。その点について、今後どのようなアクションを起こしていくのか。

答弁 空き店舗の所有者の多くが、貸すことを望んでいないという実態が調査結果からも分かる。今後、**積極的なアプローチ**をかけていくなから**空き店舗のほり起こし**を図り、「空き店舗バンク」の運用発展に努めたい。

芳賀赤十字病院の将来的な跡地利用について

質問 跡地利用について、最終的な判断をするのは日本赤十字社側だということは理解する。しかし、**行政としても一定のイニシアチブ**を取るべきではないか。ちなみに、**群馬県前橋市**では赤十字病院の新築に際し、**協議機関を立ち上げて**いるようだ。ルール上できないということではないと思うが。

答弁 病院跡地に何かできるような話があれば、**行政としても話を聞いていくし、ふさわしくない施設が来るようであれば反対**もしていく。ただし、**今はまだ日本赤十字社からの打診もない**し、そういう段階ではないと考えている。

「協働推進課」の設置について

質問 市民と行政が協働で取り組んでいる事業は、観光、福祉、環境に至るまで多岐に及んでいる。**市民目線で考えれば、窓口は一本化**していた方が分かりやすい。今まで各部署にいた協働の担当者を1つにまとめるのだから、職員が増える訳でもない。**県内でも6市が協働担当の課を設けている**ことを考えても実現可能だと思うが。

答弁 市民との協働で進める取り組みは、**何年も現行の組織で行ってきた**。そのため、関連してつながりのある事業も多岐に及んでおり、単純に1つの課にまとめることは難しい。また、**協働推進課のような部署を設けている他市の状況を見ると、7~10人の体制が必要**と予想される。

要望

自治会、ボランティア団体、環境パートナーシップ会議、観光ネットワークなど**各種団体**を見ると、1つ1つは活発な事業をしているが**横のつながりは弱い**。これは、**行政にコーディネートをする部署がないことが要因**と考える。協働に関する取り組みは、1つの課を設置して完結するものではない。組織横断的な取りまとめをする部署として今後ご検討いただきたい。

市長の定例記者会見について

質問 真岡市の知名度アップに力を注いでいる市長の姿と、マスコミに対しては一定の距離を置こうとしている市長の姿が**つながってこない**。市内外の情報発信にもつながることであり、**定例記者会見の回数を増やすこと**については**デメリットはない**と思うが。

答弁 定例記者会見が3ヶ月に1度なのは、市の施策などについては、**まず議会に説明をしてから記者会見を開くのが、議会制民主主義の中では手順**であると考えている。また、真岡市には広報手段として、週1回「**ウィークリーニュースもおか**」を発行しており、これは**他市にはない取り組み**である。

要望

そうした考え方(ウィークリーニュースで十分と考えていること)をしていること自体が、**真岡市はPR力が不足している**と指摘される**所以**ではないか。議会への配慮ということについては、現在「**議会活性化等検討委員会**」を設け、議会の仕組みについても見直されることになると思う。それに合わせて情報発信のあり方についてもご検討いただきたい。

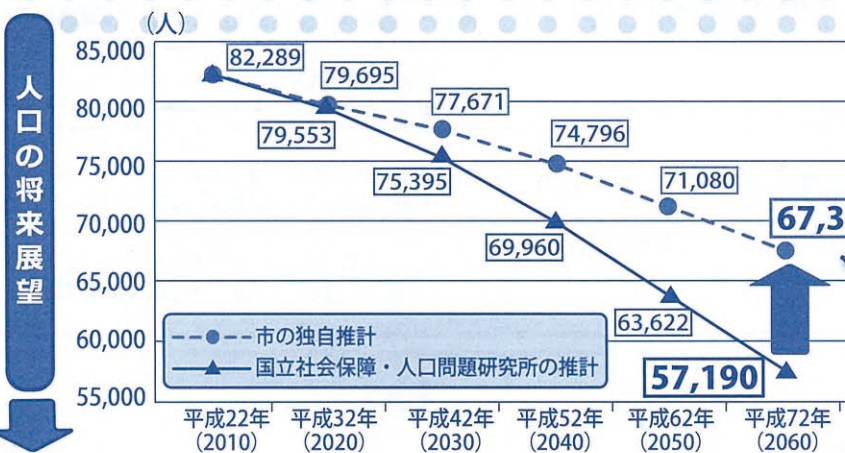
いよいよ始動! 真岡市版 地方創生

『人口ビジョン』&『まち・ひと・しごと創生総合戦略』

昨年11月、東京への一極集中の是正と、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的に、国において『まち・ひと・しごと創生法』が制定されました。

本格的な人口減少時代に突入した今日、真岡市でもこの問題を克服し『選ばれるまち』になるために、目指すべき将来の方向性を提示する『人口ビジョン』と、具体的な施策と事業をまとめた『まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。

いよいよ、真岡市版地方創生が本格始動することになります。



国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成72(2060)年に真岡市の総人口は**57,190**人まで減少すると予想されています。これを、

- ①合計特殊出生率の向上
1.49(平成25年) → 2.07(平成52年)
 - ②純移動率の改善
127人の転出超過 → ±0(平成37年)(平成25年)
- により、平成72年の人口を**67,362**人にすることを目標としています。

人口ビジョンに掲げた目標達成のために **93事業を展開!!**(新規・拡大・既存事業の合計)

人口の将来展望

目標達成のための施策体系

基本目標1

しごとをつくり、安心して働けるようにする

- 工業団地への企業誘致の推進
- 工業団地立地企業の定着化
- 新事業創出のための環境整備
- 地場産業の振興、育成
- 担い手の育成確保
- 新規卒卒者の雇用確保の促進
- シニア世代の就労支援

基本目標2

真岡市へ新しいひとの流れをつくる

- 観光情報の発信と誘客の強化
- 周遊型観光の推進と中心市街地の活性化
- 空き家の有効活用と定住促進
- シティプロモーションの推進
- U・I・Jターン者の雇用と定住促進

基本目標3

若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

- 結婚に向けた環境の整備
- 母子保健医療対策の充実
- 子育ての支援
- 特色ある教育の充実
- 意識啓発の充実
- 仕事と生活の調和に関する事業者への支援

基本目標4

安心して暮らしやすい地域をつくる

- 市民主体の活力ある地域づくり
- 国際交流の促進
- 市内交通体系の整備
- 防犯防災対策による安全なまちづくりの推進
- 市民による健康づくり活動の推進
- 高齢者の生きがいづくり
- 地域医療体制の充実

真岡市では、今後展開していく事業について、数値目標を設定。毎年度、進捗状況をチェックし、必要があれば計画の見直しも行います。

まだ3年? もう3年?

～芳賀赤十字病院の跡地利用を考える～

栃木県における保健医療圏の見直しや、病院施設の老朽化などに伴い、芳賀赤十字病院の移転が進められている。現在の計画では、平成30年に新病院が、中郷萩田土地区画整理事業地内に開院する予定である。

病院側からの発表によれば、新しい施設の概要は、地上6階建て、病床数364床。重症患者に対応した「集中治療センター」や、地域包括ケアシステムを支えるための「回復期リハビリテーション病棟」なども新設されるとのことである。

このように、芳賀赤十字病院の移転計画が進みつつある一方で、もう1つ見落としとしてはならないことは、現在の病院敷地の将来的な活用の問題である。

現在の芳賀赤十字病院は、真岡駅から約500mという文字通り中心市街地にある。しかも約2.1haという広さもある。仮に有効な活用が図られないようであれば、非常にもったいないことである。

ここからは私見であるが、例えば、まだ比較的新しい南館については、今後も活用が図られるよう民間の医療機関への譲渡を目指す。そして、その周辺に高齢者対象の住宅をメインとしながら、福祉施設なども併せて整備していくようなことはできないものだろうか。

コラム むあっぴ

そうすると、高齢者にとっては、近くに医療機関があるという安心感を生むだけでなく、病床上に寝ることになっても、自宅であれば早期の退院を余儀なくされるような事態にはならない。医療機関から見ても、近隣に住む高齢者を診るといことは、入院患者への回診ではなく、院外への往診であるから医療得点としてのメリットが大きい。さらに、病院周辺の地域にとっても、人口増になるといことで商業の活性化につなげていくこともできるように思われる。

いずれにしても、今後芳賀赤十字病院が移転するにあたっては、跡地利用について単に日本赤十字社に委ねるのではなく、行政も一定のイニシアチブを取るべきだと考える。特に、まちなかへ都市機能を集約させ、人々の移住を促そうとする『コンパクトシティ』の考え方に基づいて、今後まちづくりを進めていこうとしているのだから、尚更必要なことである。

さらに、話し合いの場には、ぜひとも地元の関係者も加えていただきたいと切に願う。長年身近にあり、地域の拠点病院でもあった医療機関がなくなるということは、それだけでも大きな不安要因であるはずだ。加えて、病院跡地に整備される施設によっては、地元の方々や通学する子ども達の迷惑になるようなことも起こり得る。だからこそ、時間をかけて、手間暇をかけながら、協議を重ねていくことが何より大切であると思う。

そう考えれば、この課題は『まだ3年ある』と思われるかも知れないが、『もう3年しかない』とも言えるのである。

中村かずひの活動日誌

8月	
1日	東郷団地夏祭り
4日	「ひばりの会」定例会
8日	八月の会「今、次世代に伝えたいこと」
9日	「わかば会」奉仕作業
10-11日	関東若手市議会議員の会総会・研修会 (於:茨城県つくば市、常総市)
17-18日	全国若手市議会議員の会総会・研修会 (於:長野県軽井沢町、佐久市)
19日	とちぎボランティアネットワークとの打ち合わせ (真岡自然観察会の活動として)
20日	市民クラブ「議会基本条例勉強会」
22日	大谷夏祭り もおか木綿踊り
24日	とちぎ次世代研究会ミーティング(於:宇都宮市)
25日	障がい者施設のあり方に関する勉強会
26日	議員協議会
28日	一般質問の通告書を提出 七井・松が丘葉荘訪問 (「ひばりの会」の活動として)
29日	やまさわの里納涼祭
30日	SAVE JAPANプロジェクト「とんぼを守る」
31日	質疑・一般質問調整会議 ※その後、市の担当課と接見
9月	
1日	「ひばりの会」定例会
2日	9月定例会開会 議会活性化等検討委員会
5日	真岡中学校、真岡東中学校運動会
7日	あいさつボランティア 芳賀赤十字病院にてヒアリング
8日	質疑・一般質問1日目
9日	質疑・一般質問2日目 ※この日、4人目として登壇 真岡地区区長会との意見交換会
11日	民生文教常任委員会1日目
12日	出前講座 地方分権・地方自治フォーラム
13日	茨城県常総市災害復旧ボランティア (関東若手市議会議員の会の活動として)
14日	あいさつボランティア 民生文教常任委員会2日目
15日	出前講座
16日	決算審査特別委員会の通告書を提出 ※その後、市の担当課と接見
18日	決算審査特別委員会にて質疑 議員協議会、議会活性化等検討委員会
19日	真岡小学校、真岡東小学校、真岡西小学校、 龍山小学校運動会
20日	東郷団地にてヒアリング
22日	明治大学校友会栃木県支部 「マンドリン倶楽部コンサート」 ※スタッフとしてお手伝い
24日	交通安全指導(高間木の交差点にて)
25日	9月定例会閉会 議員協議会
27日	大谷地区敬老会
28日	市民フォーラム
30日	「あすなろ園」を視察(於:茨城県結城市)
10月	
1日	市政功労者表彰式典
4日	真岡井頭マラソン 西真岡保育園運動会
5日	あいさつボランティア
8日	堀内恒夫参議院議員講演会(於:宇都宮市)
9日	「デイサービス未来」を視察
11日	やまさわの里防災訓練
13日	茂木町役場を訪問 とちぎ次世代研究会ミーティング(於:宇都宮市)
15日	出前講座
16日	議会活性化等検討委員会
19日	あいさつボランティア
23日	関東若手市議会議員の会役員会 (於:東京都豊島区)
26-28日	栃木の搭・沖縄戦跡巡拝
31日	SAVE JAPANプロジェクト 「鬼怒の水辺の鳥を見てみよう」